

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告を行う。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任せられている。また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。

令和6年度の科学研究費補助金は、継続研究課題として9件が内定している。

(1) 継続研究課題

基盤研究（A）補助金

「地球温暖化による劇的環境変動に適応した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究」

令和4年度～令和7年度 田邊征夫 32,200 千円 (研究期間直接経費合計額)

基盤研究（B）補助金

「保存処理に起因する出土木製品の強度低下について—調査と対策—」

令和3年度～令和7年度 川本耕三 13,800 千円 (研究期間直接経費合計額)

「中性子非弾性散乱法による出土琥珀の産地推定」

令和4年度～令和7年度 山口繁生 12,700 千円 (研究期間直接経費合計額)

基盤研究（C）基金

「寺院伝来の文献史料および文字史料の総合による中近世寺院史料学の構築」

令和2年度～令和6年度 三宅徹誠 1,900 千円 (研究期間直接経費合計額)

(進捗状況遅れの為、延長)

「膠着剤のオリジナルな姿を後世に遺せるか—大豆系膠着剤の可逆的な処理法を探る—」

令和4年度～令和6年度 大橋有佳 3,000 千円 (研究期間直接経費合計額)

「木製品の構造と機能の調和に関する実証的研究—工学的解析を用いて—」

令和4年度～令和7年度 桃井宏和 3,200 千円 (研究期間直接経費合計額)

「図化困難資料の活用を目指した3Dデータ取得・編集・出力に関する研究」

令和4年度～令和6年度 初村武寛 3,200 千円 (研究期間直接経費合計額)

「袋中良定開創寺院の総合調査による所蔵資料の研究資源化」

令和5年度～令和7年度 植村拓哉 2,300 千円 (研究期間直接経費合計額)

若手研究

「水損した民俗文化財における鉄汚染被害の解明と対処方法の構築」

令和2年度～令和6年度 金澤 韶 3,100 千円 (研究期間直接経費合計額)

(進捗状況遅れの為、再延長)

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文科学担当

總本山長谷寺（桜井市）	總本山長谷寺文化財等保存調査整理事業
大本山室生寺（宇陀市）	大本山室生寺古文書・聖教調査整理事業
釜口山長岳寺（天理市）	釜口山長岳寺文化財総合調査および寺史編纂事業
愛媛県	札所寺院の史跡指定に係る文化財詳細調査

總本山長谷寺文化財等保存調査事業は令和6年度も継続して実施する。同事業は昭和61年から継続して実施しており、令和6年度で39年目となる。

令和4年度から着手した大本山室生寺古文書・聖教調査整理事業も継続して実施する。3か年計画の最終年度となる。

令和5年度から着手した釜口山長岳寺文化財総合調査および寺史編纂事業も継続して実施する。

世界文化遺産登録推進のための四国遍路札所寺院の文化財詳細調査業務は、愛媛県等で継続して行う見込みである。

また、近畿圏内で美術工芸品・歴史資料を中心とした文化財調査事業も予定している。

考古学担当

奈良市	平城京跡（左京二条五坊北郊）発掘調査整理報告書作成業務（発掘調査・整理報告）
和歌山市	津秦遺跡第19次発掘調査技術職員等支援業務（発掘調査・整理報告）
京都市	泉涌寺開山堂及び開山塔学術調査業務（発掘調査・石造品調査）

令和6年度は令和5年度に受託した発掘調査2件が継続となり、現地調査完了後すみやかに整理報告業務へと移行する。京都市泉涌寺での調査は2年目となり、本年は開山塔の解体調査および開山堂周辺の発掘調査を予定している。

上記以外の発掘調査については、滋賀県野洲市にて大規模な開発行為に伴う調査、奈良市内の平城京の発掘調査が発生する見込みであるが未定である。また、公共事業の増加による影響で、令和6年度も奈良市内を中心に発掘調査が見込まれる。

石造物調査については、令和6年度も人文科学部門と共同で四国遍路札所寺院の調査業務を継続して行う見込みである。

埋蔵文化財保存研究グループ

金属製品・土器担当

堺市博物館（大阪府）	大塚山古墳基礎整理等業務
------------	--------------

令和2年度から、堺市博物館が所有する百舌鳥大塚山古墳出土遺物について遺物の種類、数量、状態を把握し今後の保存・復元・活用に向けた基礎整理を行ってきた。

令和5年度から、報告に向けての実測・トレース・報告業務を行っており、令和6年度も引き続き同様の業務を行う予定である。

保存科学研究グループ

文化財を後世に伝えるには、保存処理後に資料の形状や表面状態などを定期的に調査することが必要である。また同時に、資料の劣化進行を抑えるためには収蔵環境が適切であるか否かを調査することも重要である。これらの調査の結果から、今後の改善策を提案している。

近つ飛鳥博物館（大阪府河南町） 重要文化財大阪府三ツ塚古墳出土大修羅の保存状態調査

昭和53年から約15年をかけて保存処理した大修羅について、平成7年から定期的に各部の寸法変化および表面状態を現地調査している。調査の結果、寸法については安定していることが確認できているが、資料表面には滲出による汚損が見られ、定期的なメンテナンスを要す状態である。

舞鶴引揚記念館（京都府舞鶴市） 白樺日誌保存処理方法の検討

白樺日誌は第2次世界大戦後のシベリア抑留中に、紙の代わりに白樺の皮をインクの代わりに煙突の煤を用いて作成された日誌である。抑留中の日々の生活を織り込んだ和歌などが書き込まれており、世界記憶遺産に登録されている。これまでの長期間の展示により劣化が進んでおり、保存処理を行う必要が生じている。令和5年度までは、白樺樹皮の基礎物性調査を行ってきた。令和6年度からは、これまでに得られたデータをもとに具体的な保存処理方法の検討に入る予定である。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（14）

奈良市内における石造物の悉皆調査は平成元年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

令和6年度も令和5年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔や五輪塔などについて詳細な調査を行い、情報開示を行う予定である。

調査・研究の成果については『元興寺文化財研究所研究報告』に掲載し、奈良県内の教育委員会、図書館、博物館、大学をはじめとする全国の文化財関連機関に配布する。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究グループ

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。分析には、金属などの材質分析に用いる蛍光X線分析、漆などの有機質の材質分析に用いる赤外分光分析、内部構造を観察するためのX線透過撮影やX線CT、微小部を観察するための各種光学顕微鏡および電子顕微鏡などを用いる。

愛知芸術文化センター 木村定三コレクション鏡架に係る分析

故木村定三氏の遺族から愛知県美術館に寄贈された高麗鉄地金銀象嵌鏡架の分析を行う。資料は高麗時代の朝鮮半島において作製された交差式の鏡架である。交差式の鏡架は高麗時代の上流階級でのみ使用されたものであり、韓国でも類例が少なく、大変貴重な資料である。資料の全面には宝相華唐草文が象嵌で表されており、高度な金工技術が用いられている。分析によって資料に用いられた当時の金工技術の詳細を明らかにするとともに、今後の復元模造品作製において、作製方法の根拠となるデータ収集を行う予定である。

京都大学総合博物館 帯鉤等金属製品の保存修理

京都大学総合博物館に収蔵されている経筒、及び大陸産の資料と考えられる帶鉤、鉄剣の分析を行う。これらの分析から、材質や構造、製作技術の調査を行う。特に、帶鉤には線象嵌と平象嵌による装飾が全面に施されており、古代中国の象嵌技術を調べる上で重要な資料と考えられる。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

伝世資料担当

観心寺(大阪府河内長野市)	重要文化財「鉄燈籠」の保存修復及び支持体作製
(公財)江川文庫(静岡県伊豆の国市)	重要文化財「パン焼き鍋」の保存修復
豊橋鬼祭保存会(愛知県豊橋市)	重要無形民俗文化財「黒鬼古面」の保存修復
名古屋大学(名古屋市)	図書館所蔵文書の修復
大阪府河内長野市	引札の修復

歓心寺の「鉄燈籠」は、現在京都国立博物館に寄託されている状態であり令和4年に特別展「河内長野の靈地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産」で展示された資料である。金属の劣化が進んだため令和6年度での保存修復と保管・展示のための支持体の作製を行う予定である。

(公財)江川文庫所蔵の「パン焼き鍋」は、幕末に活躍した伊豆蘿山代官の江川 坦庵たんなんが開発・製造した「兵糧パン」についての関係資料の内製造に活用したパン焼き鍋の劣化に伴う保存修復と今後の保管環境の改善のための保管・展示ケースの作製を行う予定である。

「黒鬼古面」は、安久美 神戸 神明社あくみ かんべしんめいしゃで催される国指定重要無形民俗文化財の豊橋鬼祭に使用されるお面である。お面の新調に伴い、オリジナルの鬼面の損傷を修復し、保管することになった。

文書・絵図類等の紙資料の修復事業は 漢嵌法すきばめほう、繕い、裏打ちなどの技法を用い、資料の原形を損なわない修復を原則として進めている。名古屋大学図書館所蔵の文書は令和2年度から継続し漢嵌法による修復を予定している。

記録資料修復は入札が多い中、当所の独自性を提示し受託に結び付ける努力を継続していく。

埋蔵文化財保存研究グループ

木製品担当

福井県立若狭歴史博物館(小浜市)
徳島県
宮崎県えびの市
岩手県平泉町
福島県三島町
千葉県柏市

重要文化財 鳥浜貝塚出土品の保存修理
重要文化財 観音寺・敷地遺跡出土品の保存修理
島内139号地下式横穴墓出土漆製品の保存処理
町内遺跡出土遺物の保存処理
荒屋敷遺跡出土品の保存処理
中馬場遺跡出土草摺の保存処理

重要文化財の修理としては、昨年度に引き続き、福井県若狭町鳥浜貝塚（縄文時代前期）出土品と徳島県観音寺・敷地遺跡（飛鳥～平安）出土品の保存修理を行なう予定である。

そのほか、宮崎県えびの市島内139号地下式横穴墓（古墳時代）出土矢柄等の脆弱な漆膜、岩手県平泉町町内遺跡（志羅山遺跡や無量光院跡など）（平安時代末期）出土木製品、福島県三島町荒屋敷遺跡出土木製品についても昨年に引き続き保存処理を行う。また新たに、千葉県柏市中馬場遺跡の出土草摺の保存処理を行う。

金属製品・土器担当

〈金属製品〉

福岡県行橋市
広島県立歴史博物館(福山市)
茨城県かすみがうら市
京都大学総合博物館(京都市)
島根県出雲市

重要文化財 稲童古墳群出土品の保存修理
重要文化財 草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
重要文化財 風返稻荷山古墳出土品の保存修理
重要文化財 北米谷出土骨蔵器の保存修理
重要文化財 上塩治築山古墳出土品の保存修理

重要文化財の修理としては、令和5年度より引き続き、福岡県稻童古墳群（古墳時代）出土品の保存修理、広島県草戸千軒町遺跡（鎌倉時代から室町時代）出土品の保存修理を行う予定である。

また新規に、令和6年度で京都大学総合博物館所蔵兵庫県宝塚市北米谷出土骨蔵器（奈良時代）の保存修理、令和6年度から2か年で茨城県かすみがうら市風返稻荷山古墳（古墳時代）出土品の保存修理、令和6年から3か年計画で島根県上塩治築山古墳出土品（古墳時代）の保存修理を行う予定である。

〈土器〉

茨城県常陸大宮市
徳島県
大阪府藤井寺市
島根県出雲市
愛媛県松山市
和歌山县

重要文化財茨城県泉坂下遺跡出土品の保存修理
重要文化財徳島県矢野遺跡出土品の保存修理
重要文化財大阪府城山古墳出土水鳥形埴輪の保存修理
重要文化財島根県上塩治築山古墳出土品の保存修理
重要文化財愛媛県朝日谷二号墳出土品の保存修理
重要文化財和歌山县大日山35号墳出土品の保存修理

国の指定文化財の修理としては、昨年度に引き続き、重要文化財茨城県泉坂下遺跡（弥生時代中期）出土壺形土器、重要文化財徳島県矢野遺跡（縄文時代後期）出土深鉢形土器、重要文化財愛媛県朝日谷二号墳（古墳時代前期）出土壺形土器、重要文化財和歌山県大日山35号墳（古墳時代後期）出土家形埴輪・胡籠形埴輪の保存修理を行う予定である。また、令和6年度より新たに、重要文化財大阪府城山古墳（古墳時代）出土水鳥形埴輪、重要文化財島根県上塩治築山古墳（古墳時代後期）出土子持壺などの保存修理を予定している。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

秋季特別展 『内部を見る～非破壊調査の成果～』(仮)

※宗教法人元興寺と共に

開催期間 10月26日（土）～11月17日（日）

開催場所 元興寺法輪館

文化財におけるX線透過撮影は、文化財の内部をX線で透視することにより、文化財の劣化の状況や内部構造、部材の組み合わせ、別素材による加飾の有無だけでなく、過去の修理状況も明らかにすることができる非破壊の調査方法である。

このX線透過撮影は、昭和53（1978）年の埼玉県稻荷山古墳出土鉄剣から115文字の金象嵌が発見されたことにより、埋蔵文化財だけでなく民俗文化財、仏像、土層など多くの文化財の調査や文化財の修理の現場において利用されるようになり、今日では、全国の様々な調査機関で様々な調査や修理に利用されて、数多くの成果が得られている。当研究所においても、平成22（2010）年に国宝東大寺鎮檀具の鉄刀二振りから陽鉄、陰鉄の文字を発見し、国家珍宝帳に記載された除物であることを明らかにするような歴史的発見があった。

本展覧会では、これまで当研究所で文化財修理のための調査の一環として行ってきたX線透過撮影における調査成果を取り上げ、当研究所における文化財の調査や修理の一端を紹介する。あわせて、この期間中に講演会も開催する。

文化講座の開催 実践文化財学 講座編

「文化財から歴史を読む」

当研究所が創立以来半世紀以上にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所所員がわかりやすく報告する。

開催日 6月12日（水）、9月11日（水）、10月9日（水）、11月13日（水）、
12月11日（水）、の計5回

場 所 総合文化財センター・ルーパ館3階

時 間 13：40～15：10

展覧会等の開催支援及び文化財活用事業

文化財企画活用担当

展示支援事業として、昨年度に引き続き「発掘された日本列島 2024」の展示支援事業の企画展示の展示支援事業を予定している。また、各部門における保存台・保存箱の作製について統括・作製を行っており、国宝沖ノ島祭祀遺跡出土品(福岡県宗像市)、重要文化財福岡県 稲童 古墳群出土品(福岡県行橋市)、阿須賀神社所蔵懸仏(和歌山県新宮市)、重要文化財草戸千軒町遺跡出土品(広島県立歴史博物館)、重要文化財朝日谷 2号墳出土品(愛媛県松山市)、重要文化財 湯舟坂 二号墳出土品(京都府京丹後市)、重要文化財和歌山県大日山 35号墳出土品(和歌山県)などの保存処理・修復に伴う保存台・保存箱作製を予定している。

なお、これまで三次元計測を利用した復元・複製品の作製も含め積極的な事業展開を進めており、令和6年度も宮内庁正倉院事務所から委託を受けて正倉院宝物の三次元計測ならびに保存台作製業務を予定している。

また、昨年度に現地保存応急処置を行った幾坂40号墳(京都府京丹後市)出土漆塗革盾((公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)と、富雄丸山古墳(奈良市)出土木棺の取り上げを行なう予定であり、現在、関係機関と実施に向けて調整を行っている。

『発掘された日本列島 2024』展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務について、令和6年も継続して実施予定であるが、現時点では入札公告を待っている状況にある。

業務内容は、本展出陳物の集荷・納品に係る梱包・輸送、ポスター・リーフレットなどの印刷・発送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプションのほか関連資料の管理、開催予定各館との調整など多岐にわたる。

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内施設環境の管理と法輪館の展示管理業務等を行う。

重要文化財弘法大師坐像と納入品出陳

「空海生誕 1250 年記念特別展 KŪKAI—密教のルーツとマンダラ世界」

期間 2024年4月13日～6月9日 場所 奈良国立博物館

6. 報告書、書籍等の刊行

『元興寺文化財研究所研究報告 2024』(1,300冊)の刊行

7. 体験活動

施設見学等

当研究所の研究及び調査成果を社会に還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れる。総合文化財センターで、定期的に一般個人向けの施設見学会を開催する。開催日は文化講座と同じ6月12日(水)、9月11日(水)、10月9日(水)、11月13日(水)、12月11日(水)、の計5回を予定している。

なお、団体見学については、業務に支障の無い範囲で日程を調整しながら随時受け入れる。